

令和 7 年度 コンピテンシー(学修到達目標)に
関する自己評価アンケート調査結果報告書

令和 7 年 12 月

浜松医科大学 IR 室（教学部門）

調査概要

1. 調査の目的

令和7年度（2025年度）医学科6年生を対象に、コンピテンシー（学修到達目標）における自己評価アンケートを得て、教育プログラムにおける問題点や改善点を把握する。

2. アンケート実施方法等の概要

- 調査対象 令和7年度（2025年度）医学科6年生 118名
- 調査方法 留置調査法（自記式）
医師国家試験受験手続の説明会時に質問紙を配布し、後日、他の書類とともに提出を依頼した。
- 調査期間 令和7（2025）年10月27日
- 回収枚数 118枚（回収率 100%）
- 有効回答数 117枚（有効回答率 99.2%）

3. その他

本調査は、医学科カリキュラム評価委員会が原案を企画し、IR室が調査を実施した。また、本調査は調査開始（2017年度）から継続的に実施しているため、過年度のデータも併せて傾向を見ることとした。

ディプロマ・ポリシーごとの集計結果

1. 専門知識と技能

今年度は到達度・満足度ともに全項目で過去4年間で最高値を記録した。特に「基本的な医療面接ができる」は、到達度で前年より約2割増加している。また、「基本的な医療記録を作成できる」も昨年度を上回り、満足度も改善している。一方、「基本的な臨床手技を身につけている」は自由記述欄に実技の不足感について2件の意見があるものの(P.17, 6.自由記述)、満足度は前年より約3割増加し、過去4年間で最高値に達した(P.3, 図1-1、P.4, 図1-2)。

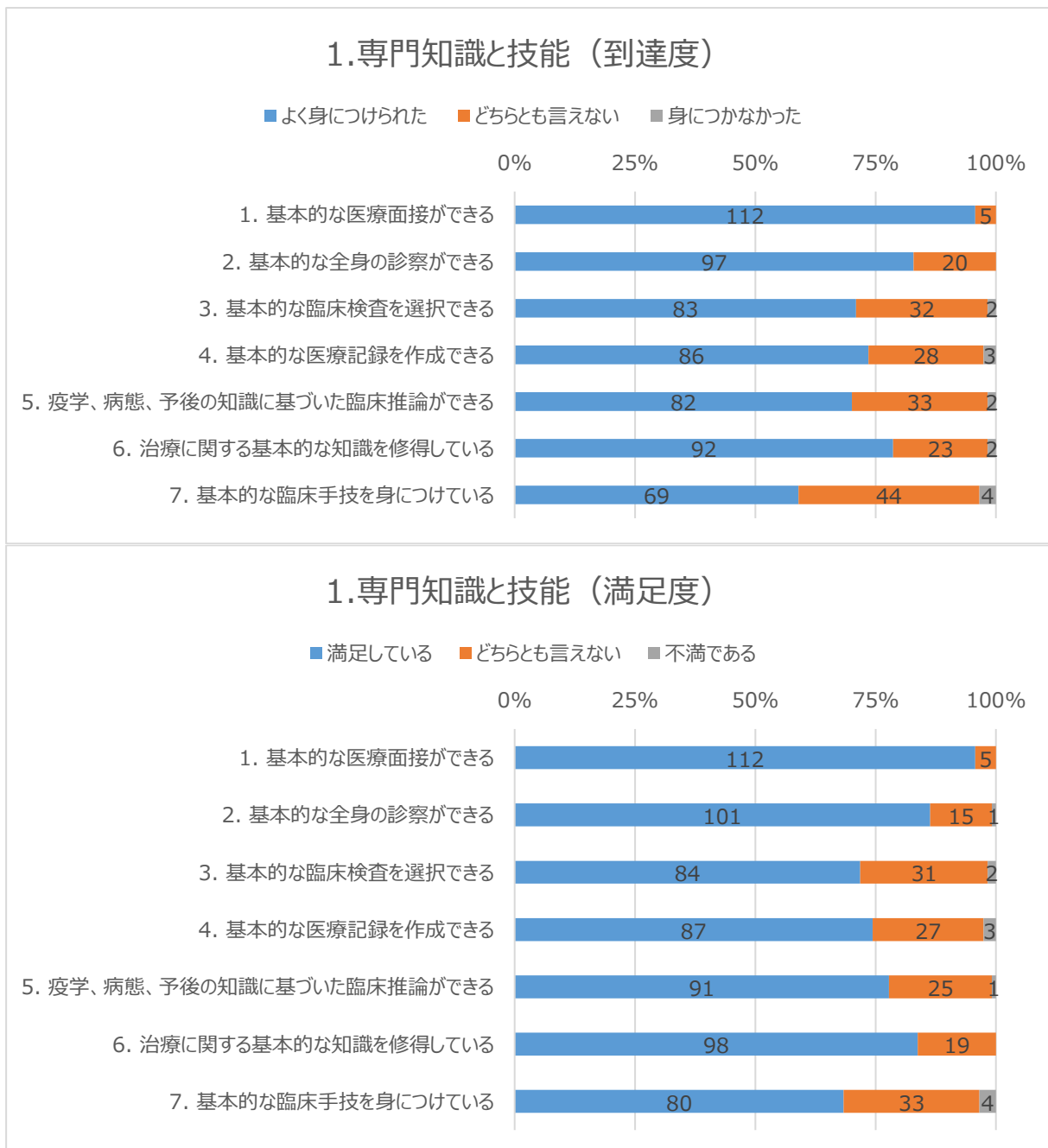
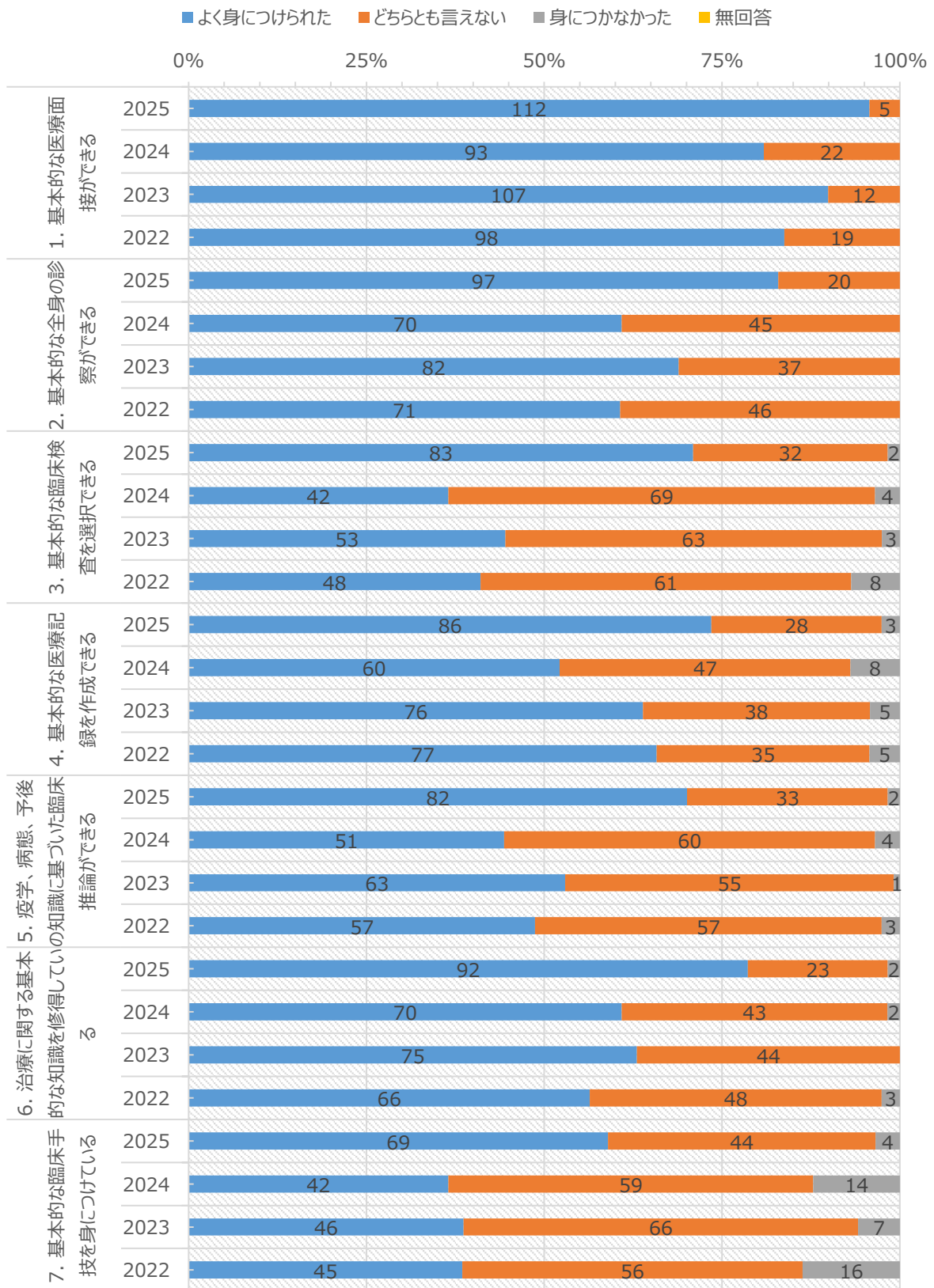
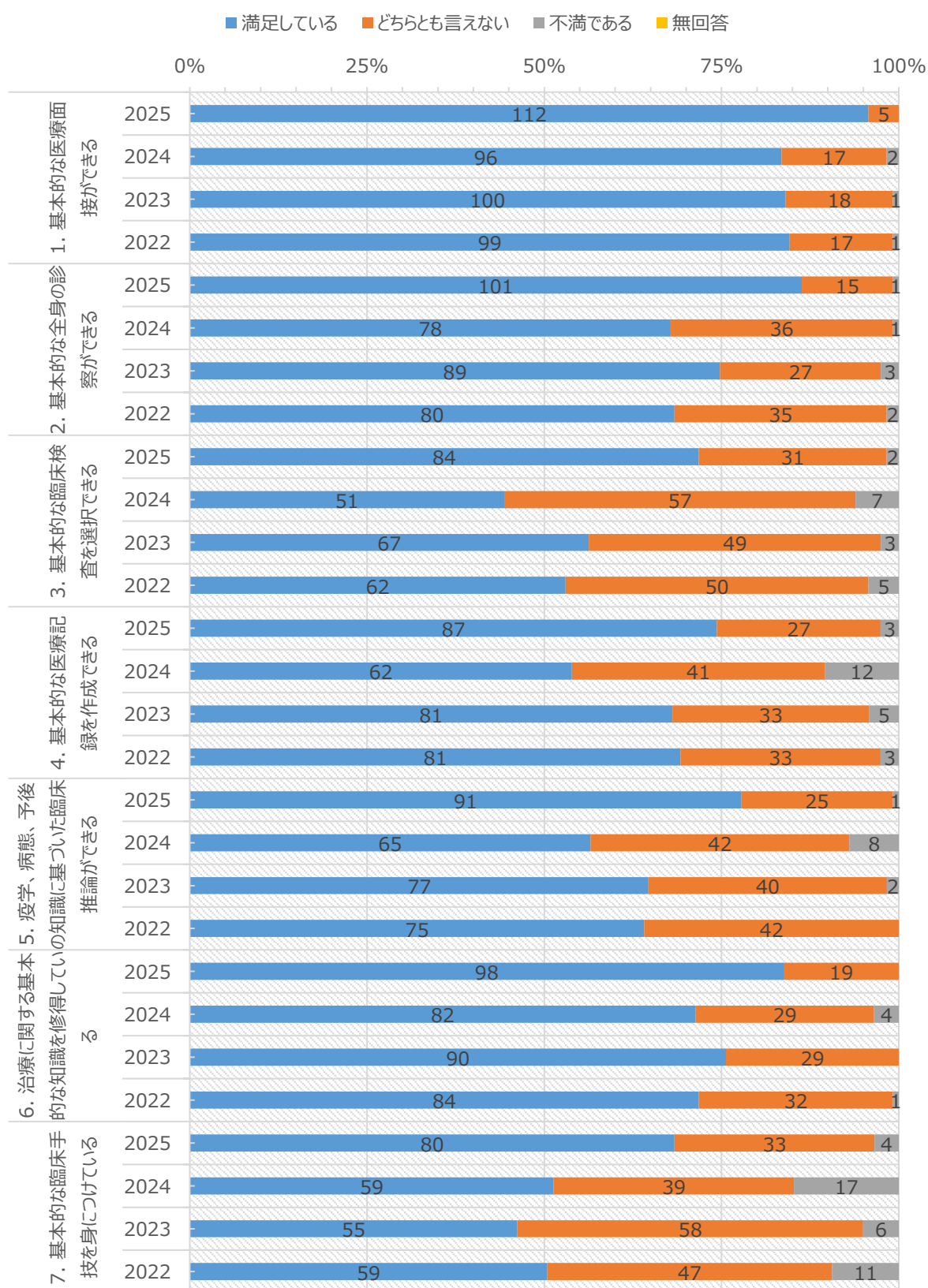


図1-1 専門知識と技能（到達度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

図1-2 専門知識と技能（満足度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

2. 自律的学修能力と応用能力

本カテゴリーでも、到達度・満足度ともに全ての項目において改善傾向が見られた。到達度及び満足度において「1. 自主的に学習を進めることができる」以外の4項目に関し、過去4年間で過去最高値を記録した。満足度に関して、「5. 医療安全の重要性について説明できる」について「不満である」と回答した学生がなくなり、全体的に基礎的な学修習慣は定着していることが示唆される(P.6, 図2-1、P.7, 図2-2)。

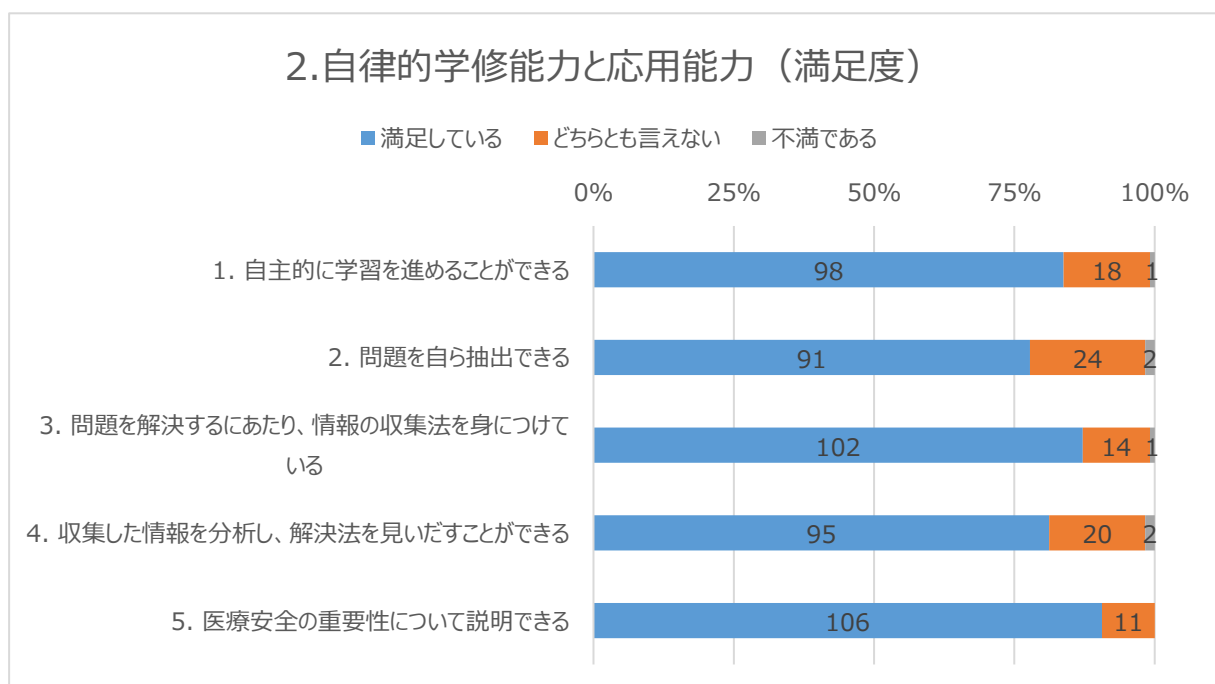
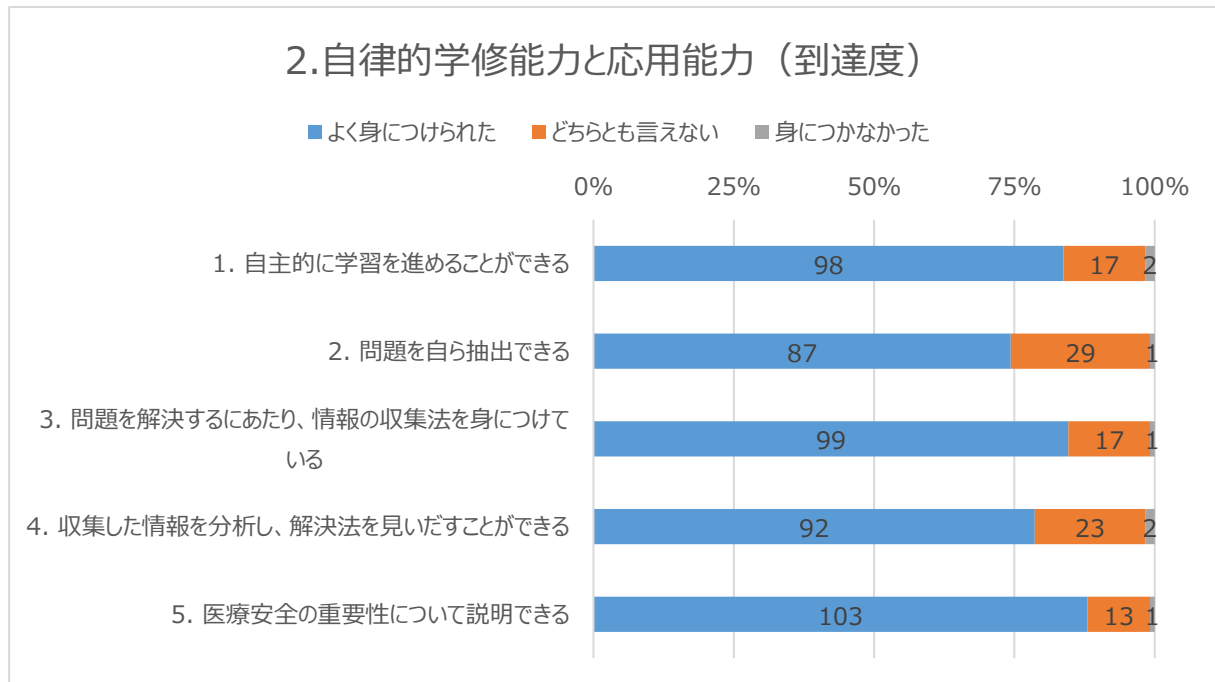
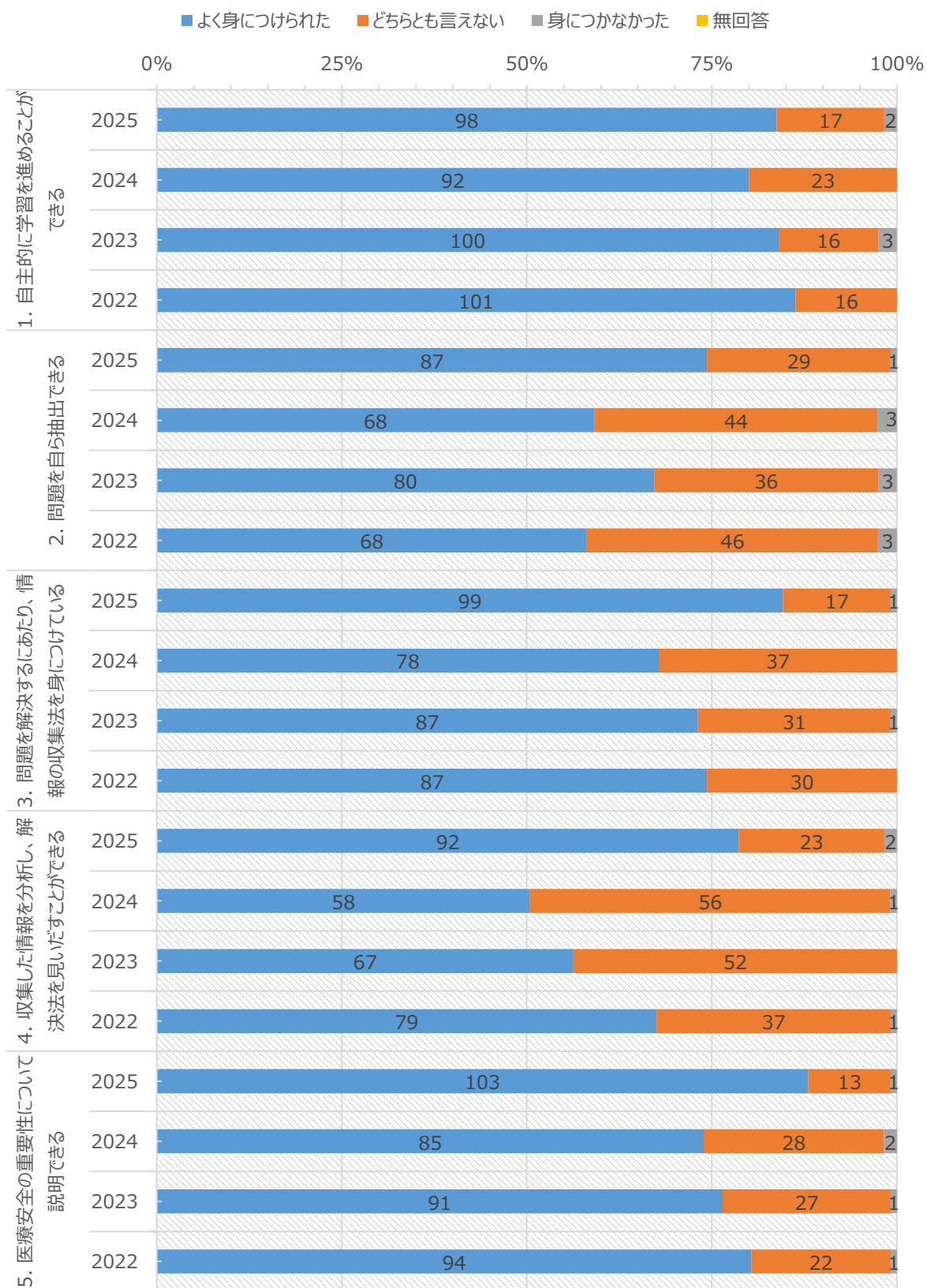
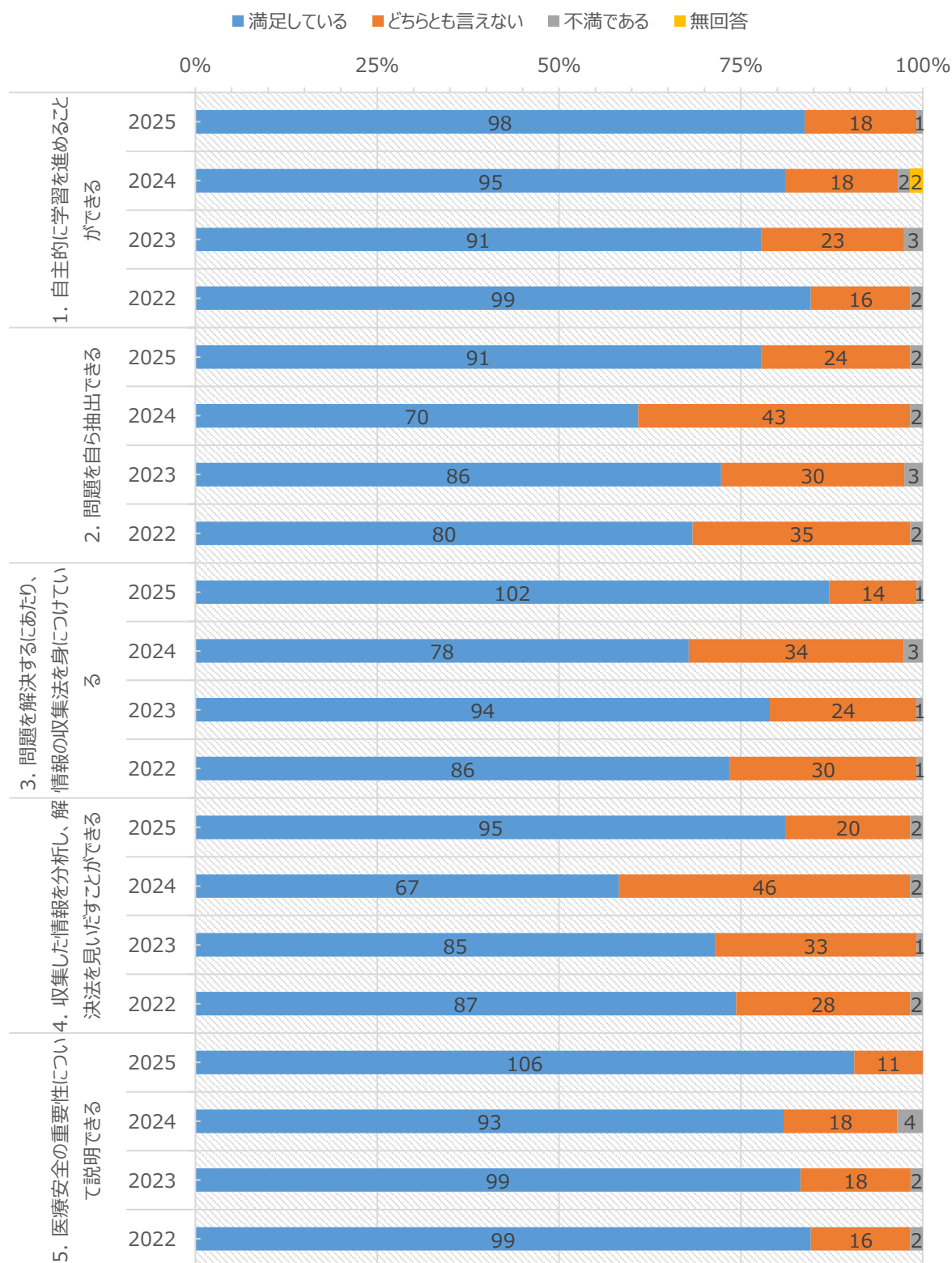


図2-1 自律的学修能力と応用能力（到達度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

図2-2 自律的学修能力と応用能力（満足度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

3. 豊かな人間性と高い倫理観

「9. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる」は、到達度・満足度ともにほぼ全員が肯定的に評価し、過去4年間で最高値を記録した。満足度における「2. 高い倫理性に基づいた行動ができる」は前年度より僅かに低下しているものの、それ以外の項目については、到達度・満足度ともに前年度を上回っている(P.9, 図3-1、P.9, 図3-2)。

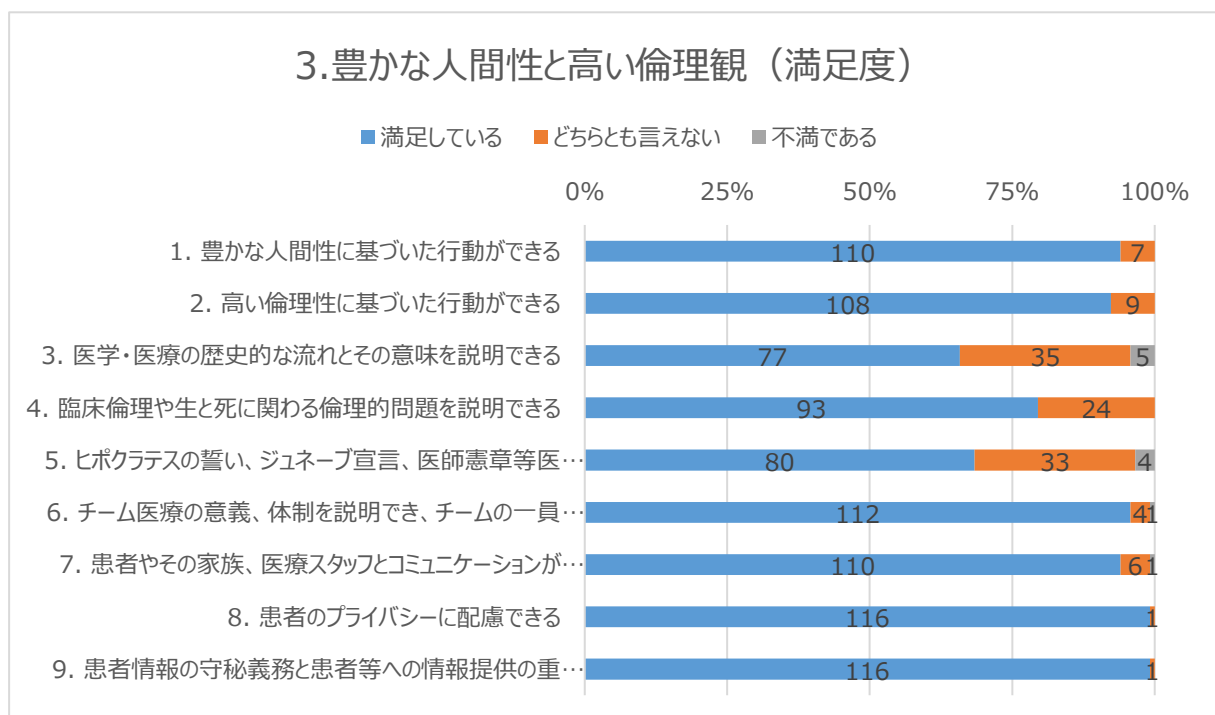
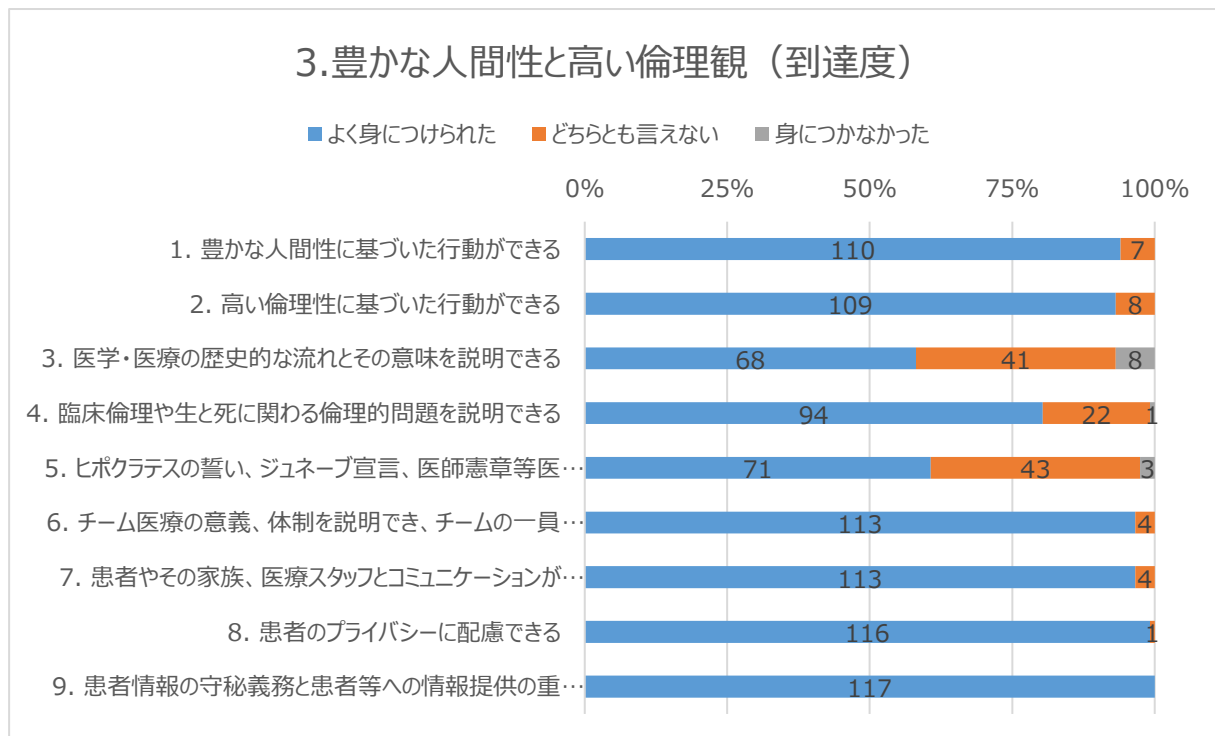
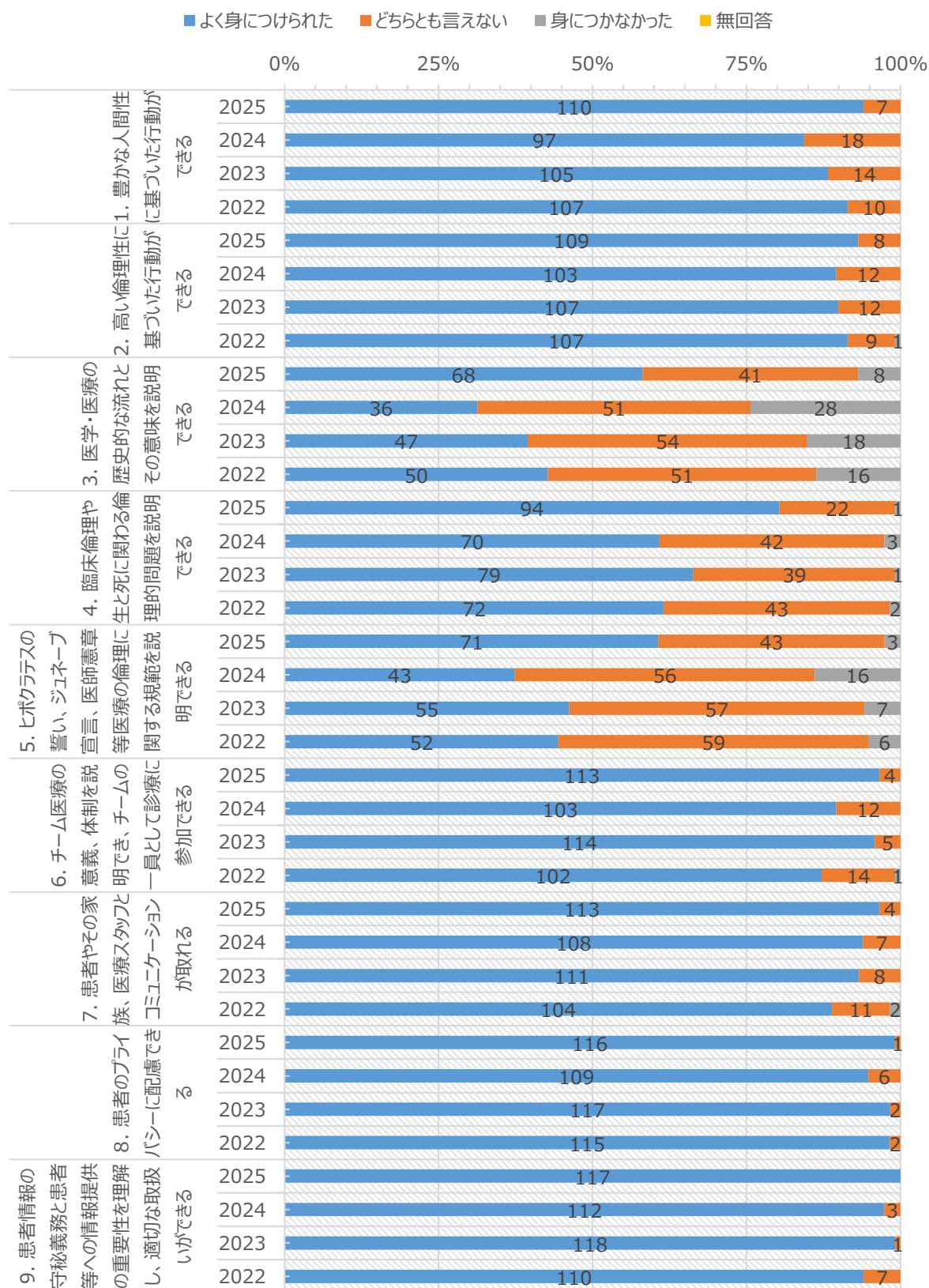
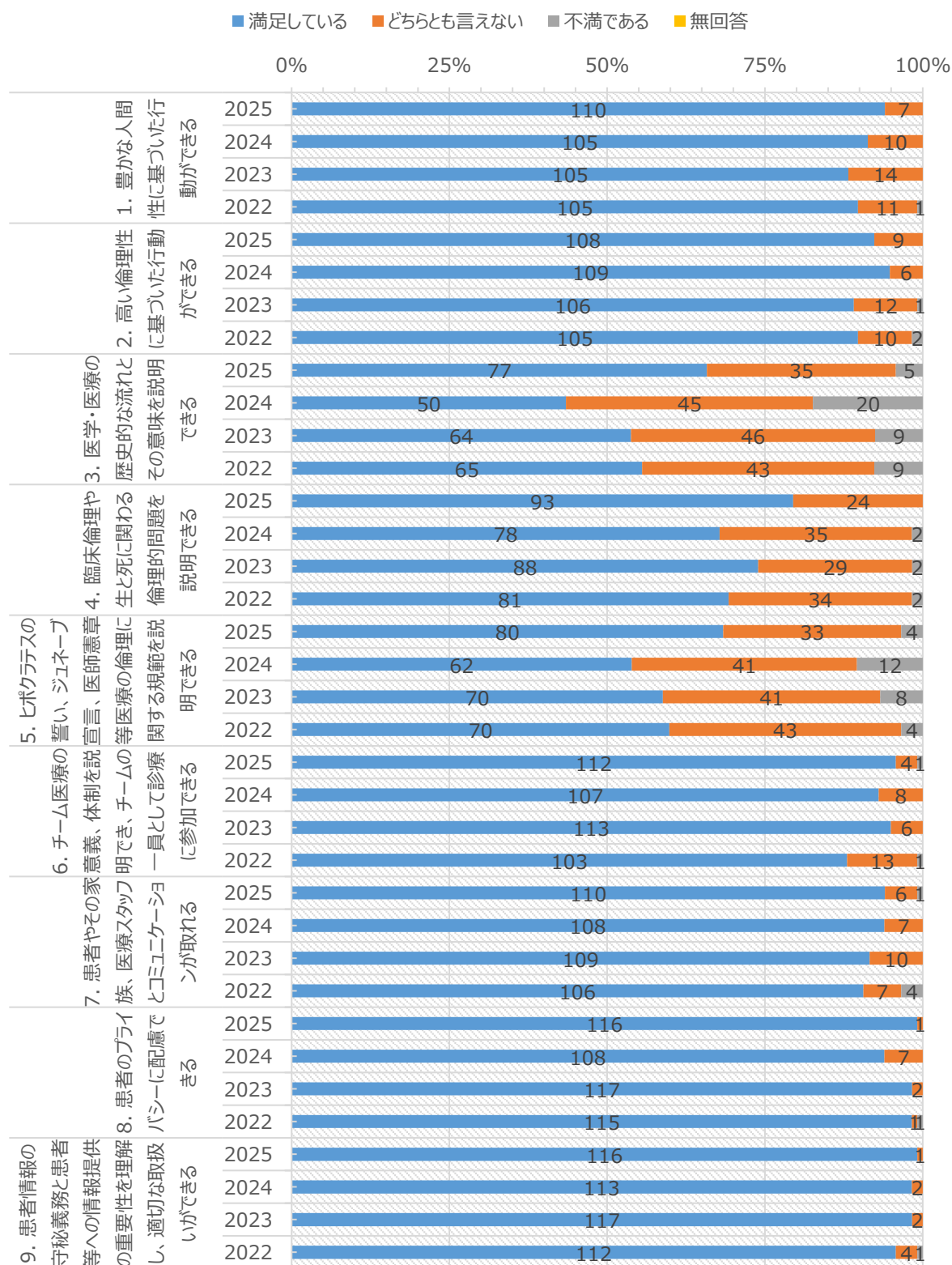


図3-1 豊かな人間性と高い倫理観（到達度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

図3-2 豊かな人間性と高い倫理観（満足度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

4. 科学的探究心

満足度における「4. 生命科学、基礎医学、臨床医学の知識をもとに分かりやすい発表ができる」以外は、全項目において過去4年間で最高値を記録した。特に「5. 光医学の基礎知識を身につけている」及び「6. 光医学の臨床応用を説明できる」に関しては、到達度・満足度ともに例年5割を切っていたが、今年度は改善された。一方で、到達度における「2. 研究課題を自ら見出すことができる」に関しては、改善傾向は見られるものの、「よく身につけられた」と回答した学生が5割を切っている状況である(P.12, 図4-1、P.13, 図4-2)。

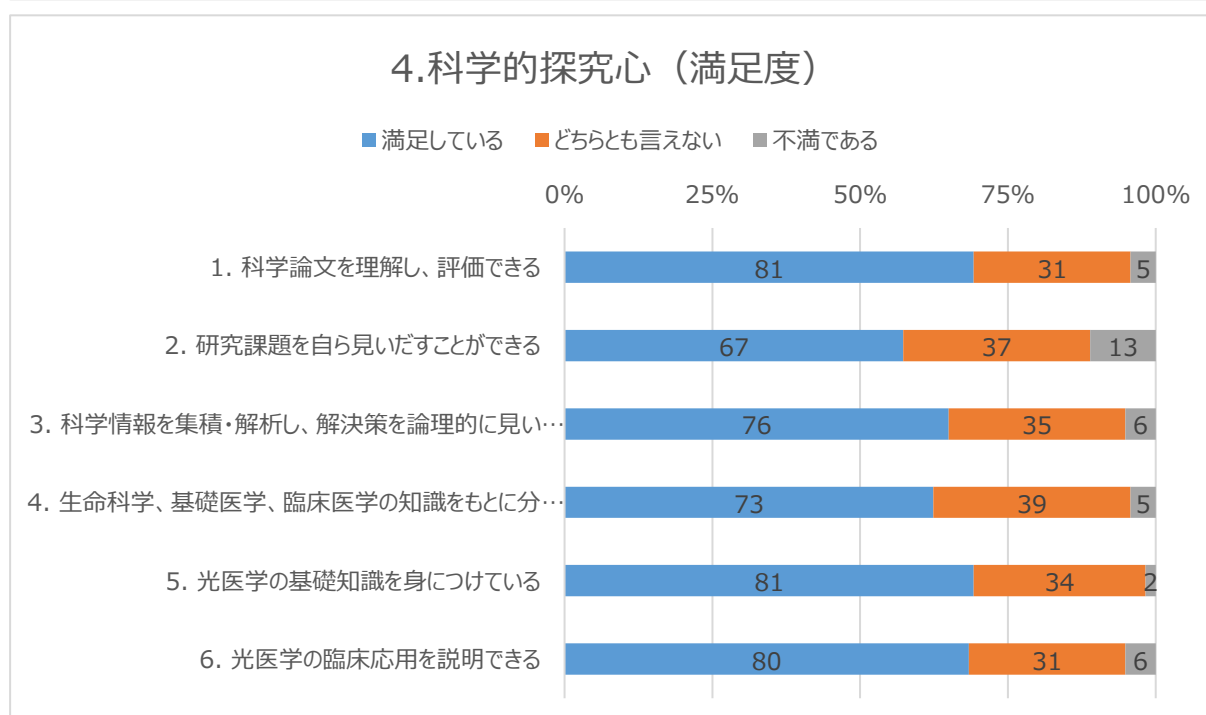
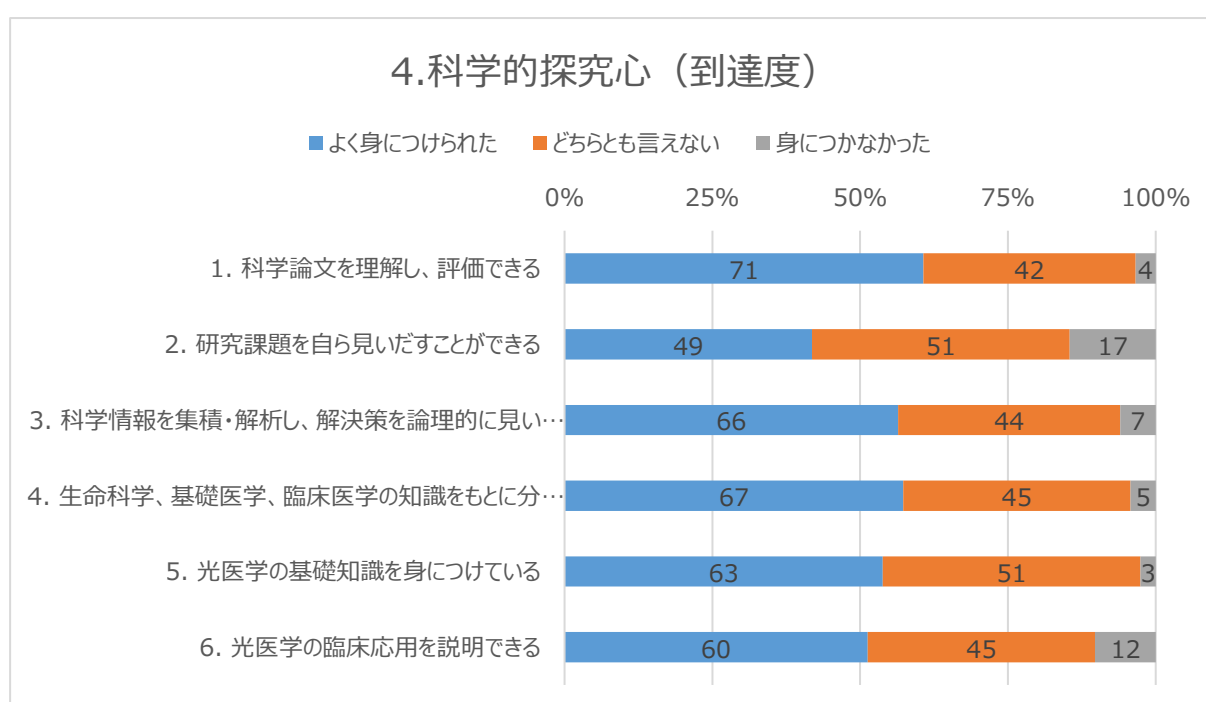
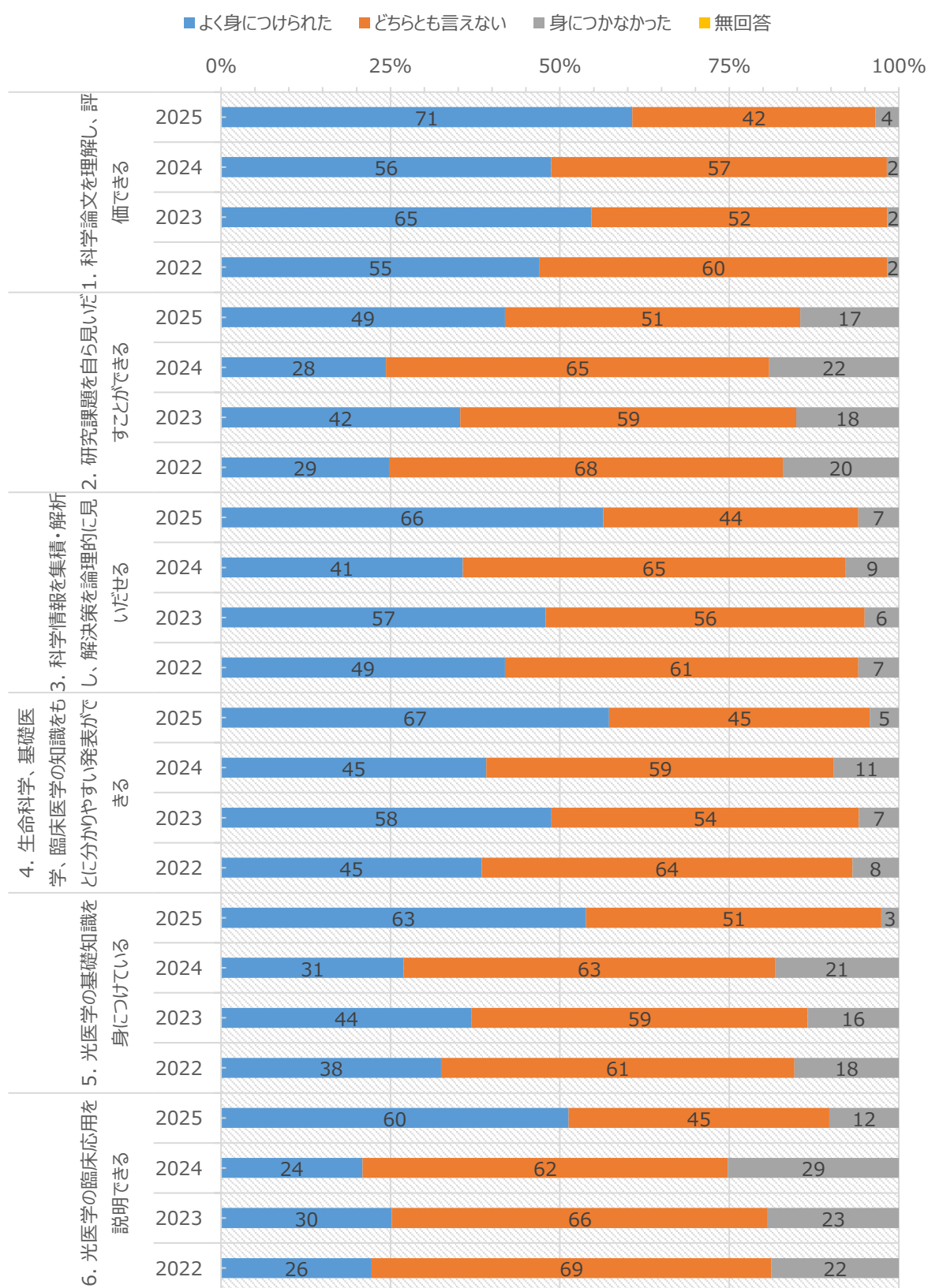
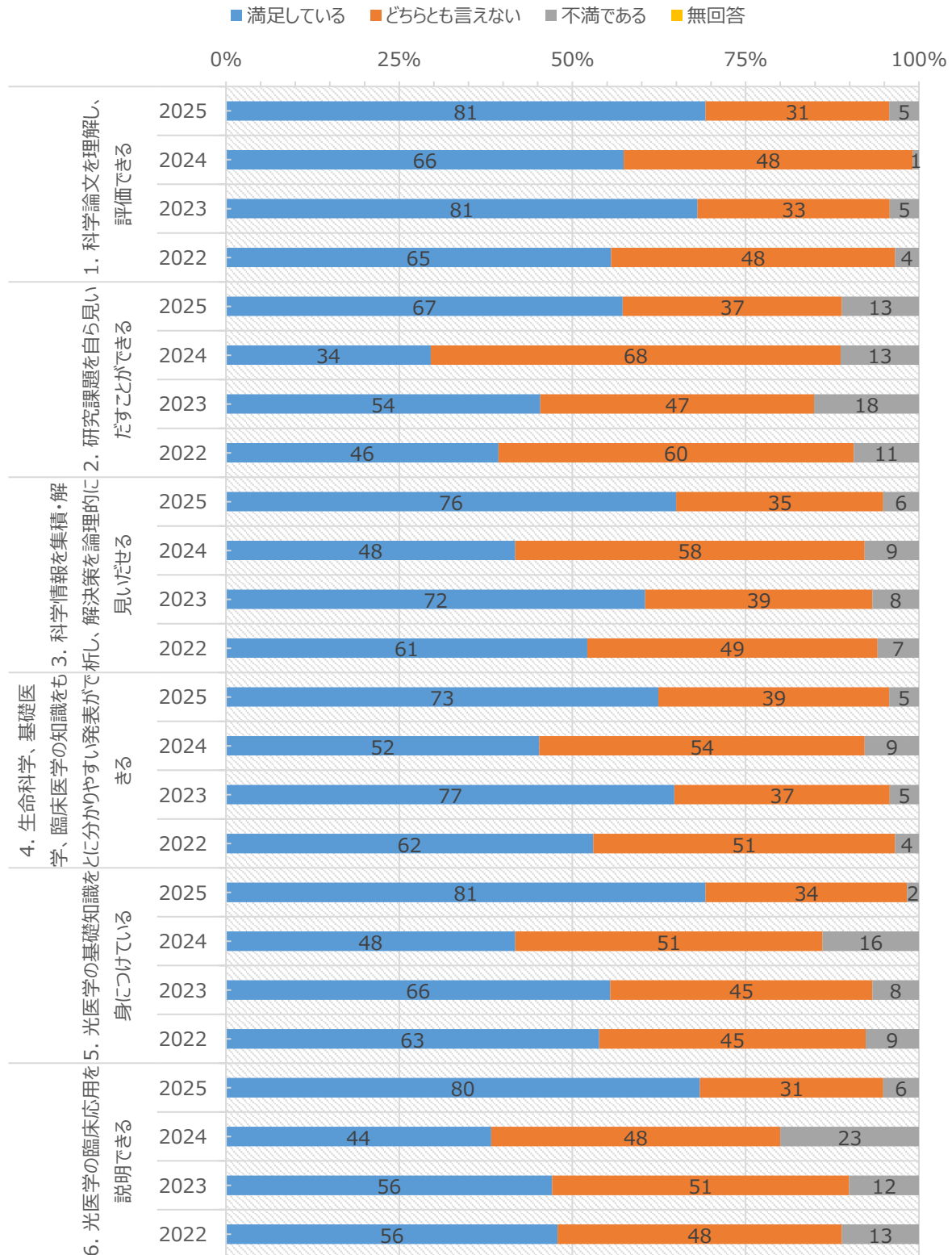


図4-1 科学的探究心（到達度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

図4-2 科学的探究心（満足度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

5. 社会貢献力

本カテゴリーにおいても、到達度・満足度ともに全項目で過去4年間で最高値を記録した（1項目は同率最高値）。「1. 地域医療の役割、必要性を説明できる」は比較的高い評価を維持し、約95%の学生が「よく身につけられた」と回答した。加えて、「4. 国際社会に貢献するための語学力を身につけている」は到達度・満足度ともに改善され過去4年間で初めて「よく身につけられた」と「満足している」と回答した学生が6割を超えた(P.15, 図5-1、P.16, 図5-2)。自由記述でも語学学習の不足感の指摘は3件に留まっている(P.17, 6.自由記述)。

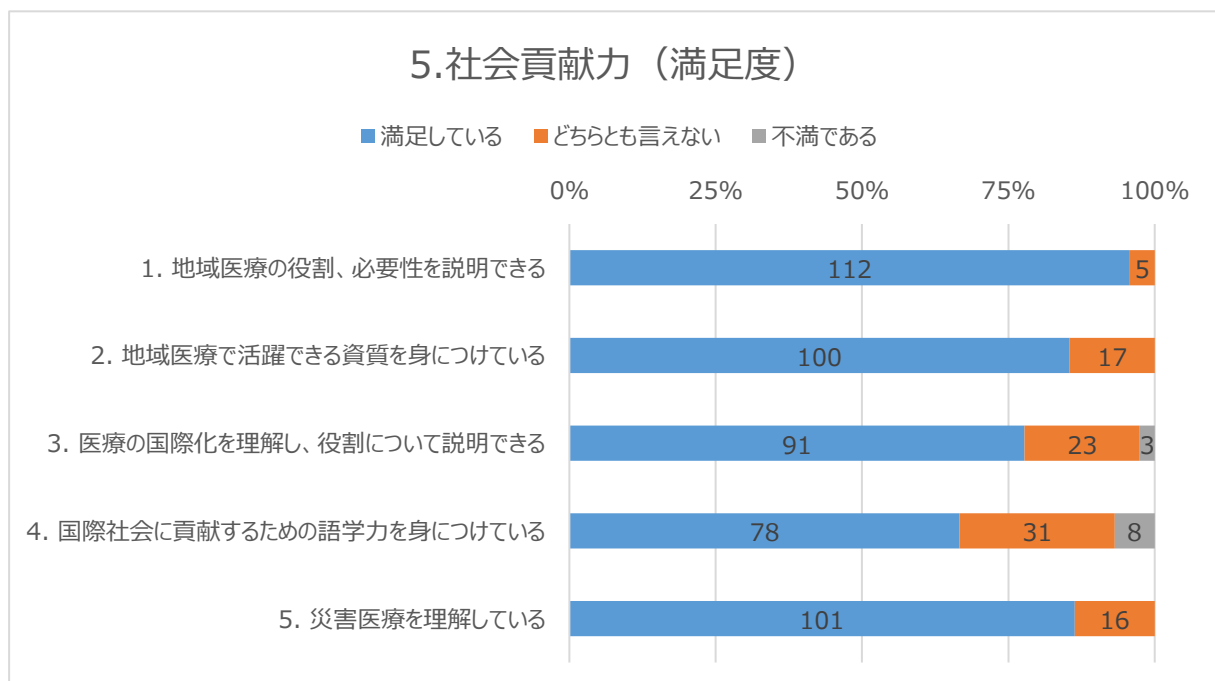
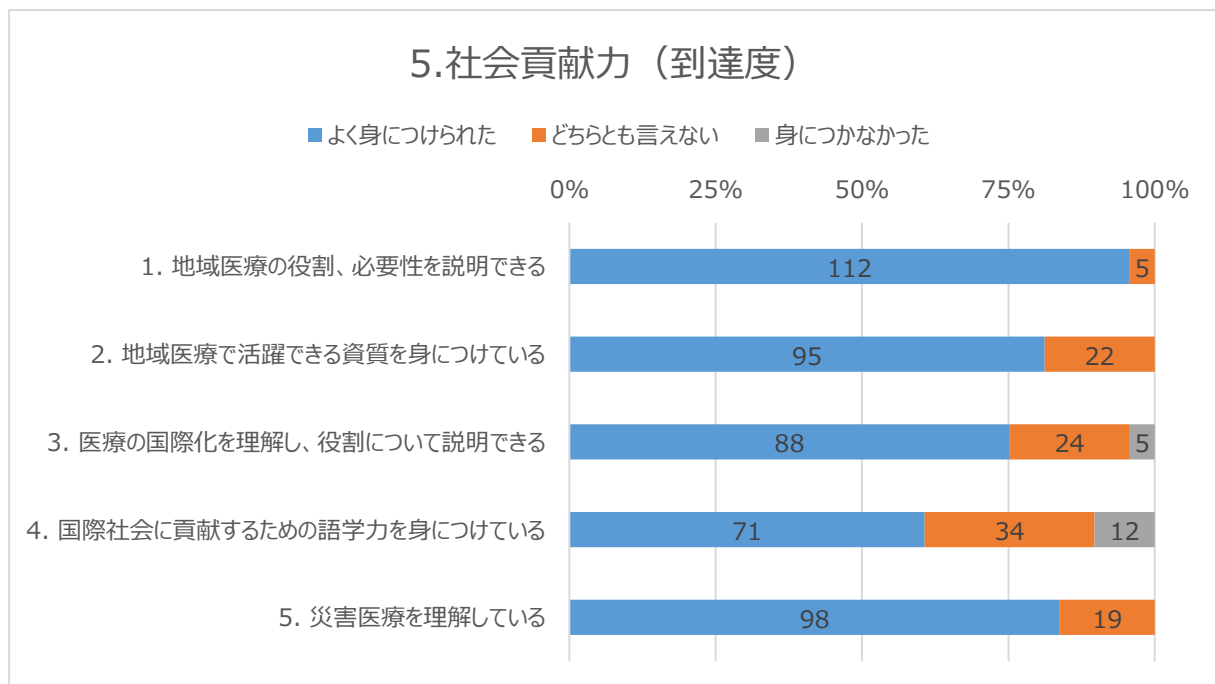
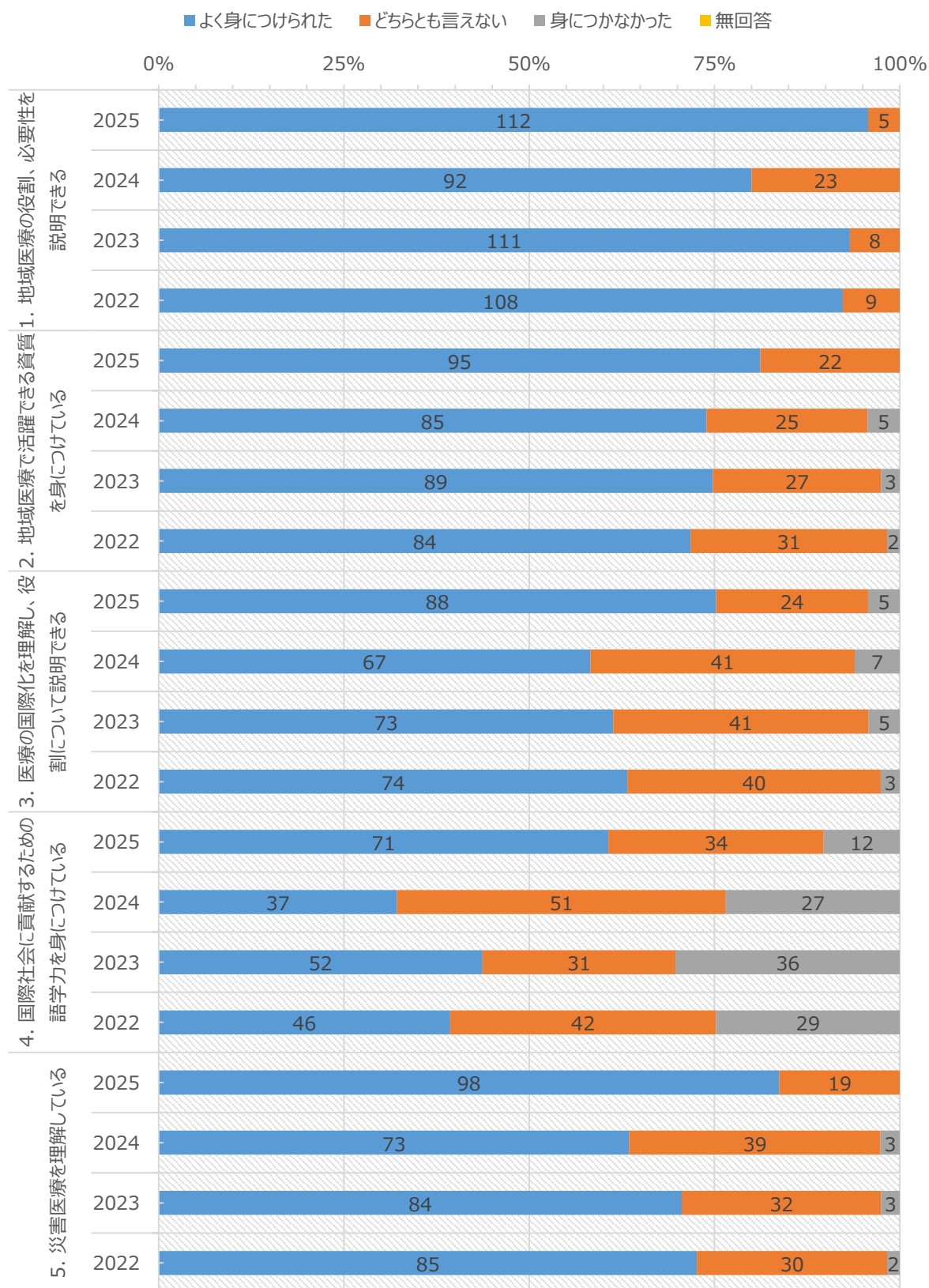
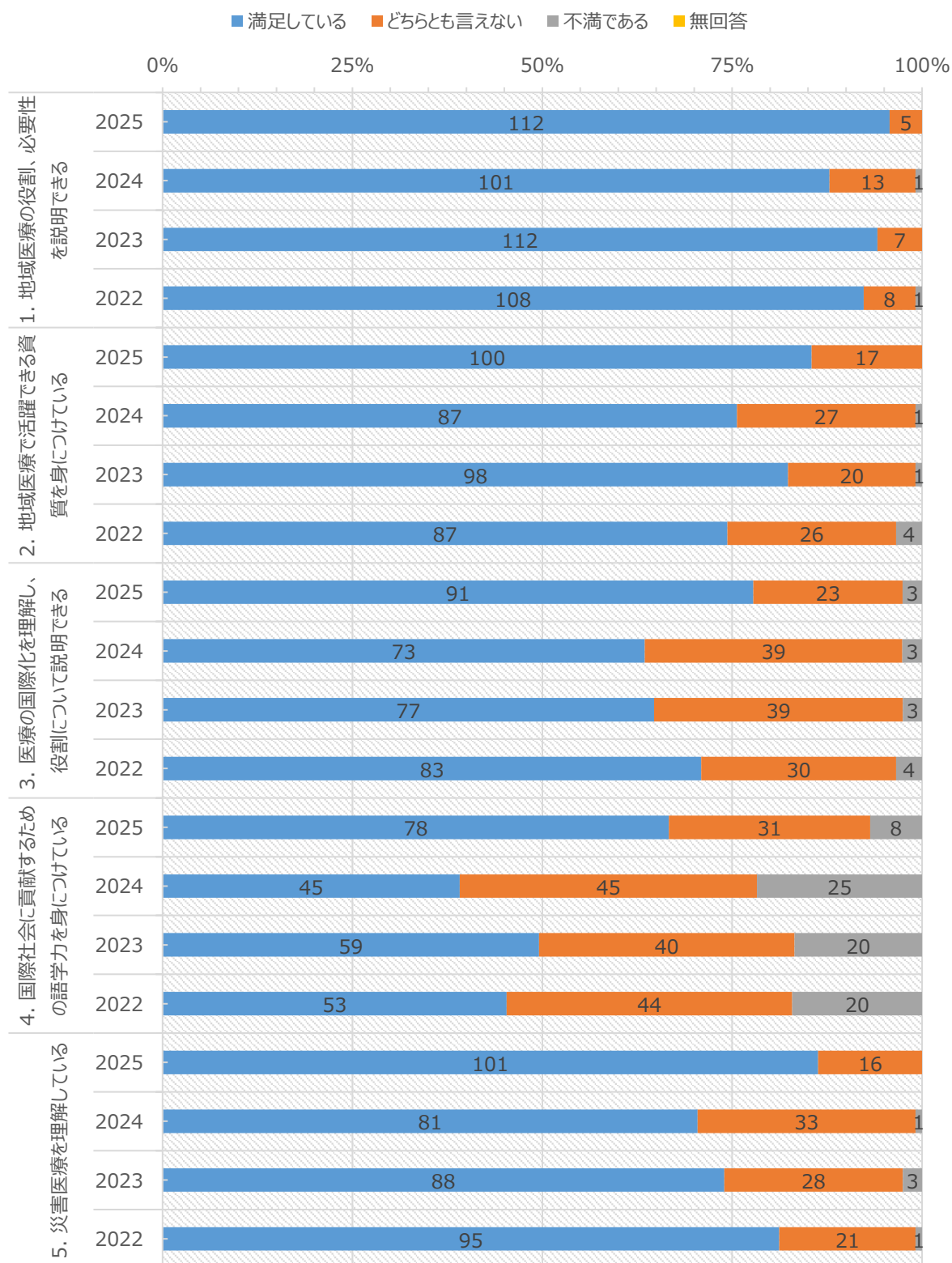


図5-1 社会貢献力（到達度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117

図5-2 社会貢献力（満足度）の4か年比較



回答者数 2025 年度：117/ 2024 年度：115/ 2023 年度：119/ 2022 年度：117